

創刊55年、ミニコミ誌で町内の“今”を伝える

人と地域と行政をつなぐ 週刊マガジン

まち・ひと つながる



熊本市まちづくりセンター通信 vol.20

熊本市内各校区で、まちづくりに関わり、地域の活性化のために頑張っている人たちを紹介します。

熊

本市の上水道発祥の地・八景水谷公園(北区)。同公園がある八景水谷町内(城北校区第3町内)で、地域住民に長年親しまれているのが「八景水谷公民館だより」です。公民館が設置された昭和39年以来、年3回の発行を続け、最新号の今年2月号で156号を数えました。他にも「公民館だより」を発行している地域はありますが、特筆すべきはそのボリューム。毎月、A4サイズ・12ページが基本で、表紙はカラー刷り、夏祭りや運動会、どんどやなどの町内行事レポートをはじめ、地域の情報がギュッと詰まった一冊に仕上がっています。

時事問題や人紹介を盛り込んだ飽きさせない工夫

7年前から編集を担当しているのが、町内の文化部長を務める橋本建矢さん。「最初は積極的に引き受けたわけではありません(笑)。でも、やるからには地域に役立つ情報を届けたい。イベント情報だけでは毎年同じような記事になり、飽きられてしまうから」と、分かりにくいアルファベットの略語を説明するコーナーや、地域に暮らす人々に焦点を当てる「我が街にこの人あり」などの新コーナー

地域担当職員からひと言

小さな町内で発行する媒体でありながらボリュームを維持し、長く継続していること、そして何より常に読者を飽きさせない新企画を考え、記事にしているのが素晴らしいと思います。若い人たちにもっと関心を持ってもらえるよう、まちセンからもアイデアを出していきます。

清水まちづくりセンター
山畑 量平



毎号、町内の約1600世帯に配布。町内会発足50周年や創刊150号発行の際は、特別号を作りました

を展開し、好評を博しています。また、国際問題や政治・社会情勢に触れた編集後記には「共感した」との意見が寄せられることも。「考えを押し付けるのではなく、今の世界や国内の問題にも関心を持ってほしい。地域のことを考える上でも、視野を広げてほしいから」と橋本さん。今後は若い世代にも読んでもらえるよう、SNSなどを活用した発信を、まちセンスタッフと検討中。地域密着のミニコミ誌の良さを守りつつ、新たな展開にも意欲的に取り組んでいます。



八景水谷町内会 文化部長
橋本 建矢さん(73)

お問い合わせ

- 熊本市地域政策課 ☎096(328)2031 (月~金曜・8:30~17:15)
- chiikiseisaku@city.kumamoto.lg.jp
- 清水まちづくりセンター ☎096(343)9162



「まち・ひと・つながる」の紙面への感想をはじめ、まちづくりに関するアイデア、相談など左記にお寄せください。